

ケーススタディ

MIRATI

THERAPEUTICS

所在地
カリフォルニア州サンディエゴ

業種
バイオテクノロジー

Miratiについて
Mirati Therapeuticsは、オンコロジーを専門に臨床開発を行う企業です。

新型コロナウイルス感染症がまん延する中、 新たな情報管理ソリューションを採用

在宅勤務の環境下で、Mirati Therapeuticsはどのように RightFind Enterpriseを取り入れたのか

適切なツールの採用は、2020年2月当時、Mirati Therapeuticsの規制関連業務担当ダイレクターとして、Romel Montellano氏がまさに計画していたことでした。Montellano氏を始め誰も予測していなかったことですが、新型コロナウイルス感染症のまん延により、労働環境が劇的に変化しようとしていた頃です。

リモートワークというチャレンジングな環境により、新たな情報管理ソリューションを取り入れるというアイデアは実現のハードルが高くなったものの、同時にその必要性がかつてないほどに高まりました。

情報へのアクセスは著作権法への準拠と常に 隣り合わせ

カリフォルニア州サンディエゴに拠点を置くMirati Therapeuticsは、特にオンコロジー分野に焦点を当てて臨床開発を行う企業です。がん患者やその家族が快適に生活できる世界を目指し、新たな治療法の発見・開発に約175名の社員が力を注いでいます。

規制関連書類を準備して様々な医療機関へ提出するにあたり、担当チームをリードすることが、同社で規制関連業務担当ダイレクターを務めるMontellano氏の主な職務です。

“

ライフサイエンス企業がデジタルトランスフォーメーションを成功させるには、関連データへのスムーズなアクセスを実現に導くツールが必要です。”

Deborah Soule氏
MIT研究員、博士



Mirati の全ユーザーが「single source of truth（信頼できる唯一の情報源）」にアクセスできるようになっています。ここでは文献の閲覧や購入ができるだけでなく、公開済みの資料について再利用が許可されているかどうか、著作権法準拠の観点からチェックすることも可能です。



規制関連書類の提出サイクルの中で参照すべき情報を見つけるには、科学文献をあたる必要があります。規制関連業務を担当するチームは他の部署と緊密に連携しています。例えば、研究開発や臨床研究のチームが公開文献をまとめて必要な要素を引用し、文書を用意します。これを規制関連業務チームがレビューし、適切な機関に提出します。

かつて Mirati Therapeutics では、コンテンツ取得のプロセスは各部署や個人のやり方に依存しており、そこに整備された単一のアプローチは存在していませんでした。文献の購入にあたっては、コーポレートクレジットカードを使用する、あるいは個人のカードを使って後に払い戻しを申請するなど、研究者によって異なる手順を踏んでいました。また、人によっては近くにあるサンディエゴ大学の図書館を利用していました。

このようにそれぞれアプローチが異なっていたため、社内でデータのサイロ化が起こり、情報が一元的に管理される場所が存在しないまま、コンテンツへのアクセスやコラボレーションが困難な状況を生み出していました。多くの研究者は習慣的に、あるいは便利さゆえかかもしれませんが、コンテンツを自身のデスクトップや個人フォルダに保存していました。そのためコンテンツが共有されず、Miratiのライセンスですでに利用できるものがあっても、それを把握する術がありませんでした。

見通しの立たない在宅勤務に適応しながら 新たなソリューションを実装

コンテンツへの中核的なアクセスポイントを設置できることが、コンテンツの検索、管理、コラボレーションにおける包括的なソリューション、Copyright Clearance Center (CCC) のRightFind Enterpriseを採用する「最大のメリット」とであると Montellano氏は述べています。

2020年2月、Montellano氏とそのチームは、RightFind Enterpriseの導入を決定しました。3月、新型コロナウイルス感染症のまん延により、出社が必要不可欠な研究員を除き、Miratiの社員に対してリモートワークの開始が指示されました。

オフィスではなく自宅からプロセスをスタートしたにもかかわらず、RightFind Enterpriseの導入は途中の調整も必要なく、予定通りに進行しました。Montellano氏によると、このおかげでIT担当者による早期着手が実現しています。

Montellano氏は次のように述べています。「IT部門の協力は重要です。私はITのバックグラウンドをそれほど持ち合わせていないため、特にCCCのテックチームと技術的な内容を協議するにあたり、IT部門をととても頼りにしていました。IT部門の協力があつたからこそ、導入がうまくいったのです。自分には理解できそうもない言語が飛び交う間、私は座って耳を傾けていることしかできないのですから。」

最後、MiratiのIT部門とCCCのデリバリーチームがメールを数回やりとりし、電話ミーティングを1度実施したのみで、シングルサインオンが適用されました。

「パンデミックの最中にRightFindを立ち上げたわけですが、このプロセスはとても順調に進みました。システムの不具合もありませんでした。」

現在、Miratiの全ユーザーが「single source of truth（信頼できる唯一の情報源）」にアクセスできるようになっています。ここでは文献の閲覧や購入ができるだけでなく、公開済みの資料について再利用が許可されているかどうか、著作権法準拠の観点からチェックすることも可能です。

CCCのプロジェクトマネージャー、Shelley Zatskyは次のように述べています。「MiratiにおけるRightFind導入は、約1か月で完了しました。しかも、あらゆるプロセスが在宅勤務へ移行する中で行われたのです。RightFindを実装するにはクライアントとのパートナーシップが必要不可欠ですが、Miratiは協力体制を築くことに積極的でした。必要な情報がすべて用意されていたため、システムを素早く立ち上げることができました。」

“

「CCCとの協業は円滑に進み、風のような速さで実装できました」

Romel Montellano氏
規制関連業務担当ダイレクター

次のステップ: トレーニングとツール使用の浸透

パンデミックの最中に新たなツールを実装することは確かに大仕事ですが、対面のコミュニケーションができない中でツールの使用をいかに浸透させるかということも課題となるかもしれません。しかし、CCCチームは似たような状況に打ち勝ったケースをすでに経験しています。

「多くのユーザーがRightFindを使い始めています。オフィスにいれば誰かと立ち話ができ、そうした状況は新しいツールの導入においてもメリットがあります。Microsoft Teamsではそうしたメリットを享受できません。」

立ち話や対面のやりとりと同様のメリットは得られないかもしれませんが、それでもRightFindチームは部署ごとにバーチャルトレーニングを展開し、RightFind独自のワークフローについて理解の促進を図っています。

Rightfind Enterpriseについて

RightFind Enterpriseを利用すると、科学文献やデータへの素早いアクセスが可能となり、必要な情報や見識を迅速に得られるほか、著作権法に準拠した上でコラボレーションの促進につなげることもできます。従来複数の情報ツールを使用していた企業でも、RightFind Enterpriseの包括的なソリューションでシンプルなユーザー体験が実現しています。情報管理者にとっての利点として、マルチソースコンテンツにおけるROIをほんの数分で算出できるという点も挙げられます。



CCCについて

Copyright Clearance Center (CCC) は、ライセンスの集中許諾サービスにおけるパイオニアであり、ライセンス供与、コンテンツ、ソフトウェア、および専門サービスを通し、情報の統合やアクセス・共有管理で組織をサポートしています。CCCとその子会社であるRightsDirectは、著作権や情報管理における専門知識を活用し、データソースやコンテンツ資産へのアクセスおよびそうした情報の統合で人々をサポートすることで、ステークホルダーと協力の上意思決定に力を与える革新的な情報ソリューションを構築・提供します。
© 2021 Copyright Clearance Center, Inc. 無断転用は禁止されています。



詳細について

CCCのソリューション(ライセンス、コンテンツ、データ)に関するお問い合わせ先:

米国のお客様:

🌐 copyright.com/rightfind
✉ solutions@copyright.com

米国外のお客様:

🌐 rightsdirect.com/rightfind
✉ solutions@rightsdirect.com